



令和7(2025)年2月



養徳園総合施設長 とちぎ家庭養育推進協議会理事 福田雅章

施設に奉職した32年前、最初に立ちはだかったのは「15歳の壁」だった。私立高校への道がまだ開かれてなく、特別支援学校の高等部も整備されていなかった当時、県内の養護施設児童の中卒後の進学率は約50%だった。学力があって県立高校に合格できる子は、施設に残り福祉サービスを受け続けることができるが、学力が不足する子は就職自立を強いられた。15歳でだ。その中には今でいう特別支援教育を受けていた子も多数いた。力のない子が先に福祉から切り捨てられていく現実、まさに児童福祉の闇だった。

15歳で親や親族からの支援もなく、しかも発達上の課題も有しているとしたら、どうして自立した生活をいとなむことができようか。ホームレスとなり警察に保護されて初めてその子の実情を知ることもあった。私は「児童福祉は18歳まではず」と看過できなかった。そのことが自立援助ホーム「星の家」の設立に繋がっていった。

次にやってきたのは「18歳の壁」だった。平成15年、ある児童の短期大学進学にあたって県に措置延長を申し出たが認められなかった。平成23年12月に出された厚労省からの通知によって、この壁は破られる。内容は進学者については措置延長を積極的に利用せよというものだった。とはいえ、措置延長は20歳まで。

平成29年4月、社会的養護自立支援事業が制度化され、22歳の年度末までの支援が可能になったことで「20歳の壁」は破られる。そして令和6年4月、改正児童福祉法の施行によって「22歳の壁」も破られ、子どもの状況に応じて支援を届けることが可能となった。

制度は整ってきても自立へのプロセスでもがき苦しんでいる若者は後を絶たない。子どもの福祉に関していえば、制度だけでは子どもを救うことはできないのだ。なぜなら「人は人によって傷つき、人によって救われる」、つまり、大人によって虐げられた子の心の傷は、よき大人との出会いがなければ回復しない。

虐げられてきた子どもにとっての「よき大人」とは、我々は自問自答しなければならない。



2歳のSさんと暮らし始めてあっという間に1年以上経ちました。先日済生会宇都宮乳児院で開催された里親サロンに参加。Sくんが退所して以来初めての乳児院訪問で家族で楽しみにしておりました。久しぶりにお会いする大好きな担当のOさんに最初はモジモジ照れていたSくん。しばらくすると走り寄って抱っこしてもらっていてとても微笑ましかったです。

家族で色々なワークショップを楽しませてもらっていたら、その様子を見ていた担当のOさんが「幸せです…」と感激していらした姿にむしろこちらが感動してしまいました。乳児院の職員さんというのは何て尊いお仕事なんだろうと思いました。他にも沢山の職員さんに「大きくなったねー！」とあたたかく迎えていただき、Sくんの成長を喜んでくれる存在がこんなに沢山居ることをずっと忘れず伝え続けようと思います。

暮らし始めた当初は育児初心者の私は戸惑い、悩むことばかりで乳児院の職員の方々には相談に乗っていただいたり、とても支えていただきました。「ママがんばったね」の言葉にどれほど勇気づけられていることか。親子共にまた成長の報告が出来るよう、日々楽しく歩んでまいります。



追伸：連れ帰ったメダカたちは我が家の水槽で毎日Sくんに餌をもらって元気にしています。



**里親カフェ
好評です**

●12月7日(土) とちぎ福祉プラザ レクリエーション室 【クリスマスおたのしみ会】

12月は子どもたちが楽しみにしているクリスマスの時期です。少しでも楽しんでいただけるようスペシャルな会を企画しました。

7日は20名程の方が参加されました。紙皿を使用したクリスマスリース製作では、子どもたちがシールを貼ったり絵をかいたり、とても可愛いオリジナルのクリスマスリースが完成しました。そして、サプライズゲストとして宇都宮市のマスコットキャラクター『ミヤリー』が登場！子どもたちはミヤリーに駆け寄り握手をするなど、たくさんの笑顔を見せてくれました。

また、今回は里親さんからサイズアウトした衣類の提供があり、おさがり会も兼ねて歓談の輪が広がりました。ご提供くださった里親さん、ありがとうございました。



●12月21日(土) きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 多目的室1 【クリスマスおたのしみ会】

21日は栃木市で開催しました。マスコットキャラクターの『とち介』をご招待したところ、カフェの案内当初からとても反響をいただき、30名を超える申し込みがありました。子どもたちの元気な掛け声で『とち介』が登場すると大きな歓声が上がりました。その後、家族ごとに写真撮影を行い、大人も子どもも『とち介』とたっぷり触れ合いました。また、紙皿の雪だるま製作では、子どもたちの個性あふれるカラフルな作品ができました。最後は完成した雪だるまと一緒に参加者全員で記念撮影。



里親カフェは、毎回多くの方に参加いただいております。里親さん同士だからこそ共有できることや共感できるお話もあるかと思っております。県内の地区を越えて里親さん同士が交流できる場です。里親さん同士が知り合い、その後も交流されるフォスター友だちの輪も増えています。

ぜひお気軽に遊びにきてください。

里父カフェも やっています



●1月25日(土) とちぎ福祉プラザ 201会議室
【里父カフェ】



今回は当法人理事であり養徳園総合施設長の福田さんと共に、里父さん、合わせて7名が集まり、里父としての子育てについていろいろと話し合いました。発達に課題のある子どもへの対応、真実告知について、父親の役割は？など、それぞれの思いを語り合いました。

参加者の声

実は、里父カフェの寸前まで緊張していました。でも、子どもが同年代の方がいたり他の里父さんの話も聞けて、参加して良かったです。(Uさん)

私たち夫婦は共に他県出身で近くに親戚がいません。里父同士で話せる機会ができて参考になりました。里親も里子も交流が大事ですね。(Iさん)



子どもとの関係を改善し問題行動に対応する里親トレーニングプログラム

今年度は、フォスタリングチェンジ・プログラムの通常版と思春期版、2つのプログラムを実施し、合計12名の里親さんが受講しました。参加者全員が子育てに役立ったとの事でした。来年度も実施しますので、皆さんぜひご参加ください。



フォスタリングチェンジ・プログラムを受けて

開始時間より少し早く無事に到着、中へ入るとTF Cの方々が、少し後から今回一緒に参加される皆さんが到着。皆さん優しそうで安心しました。自己紹介や子どもの学年などを話していて、上は小学校5年生、下は幼稚園のお子さんの子育ての中で、悩みや不安、初めての経験などいろいろな話をするのが出来ました。その中でファシリテーターの方々のアドバイスや解決法などが聞けてとても役に立ちました。一回ごとにそれぞれテーマがあり、そのテーマを実践してみて次の週に発表をし、やってみての感想や、うまくいった所、できなかった所などみんな話し、解決の糸口をつかむというのを毎週、

昨年の9月から11月までの3か月間参加する事になり、初めて会う人が苦手だった私に優しく接して下さったのが、フォスタリングセンターの方々でした。会場は「パルティ」一人で行くか、時間に間に合うように到着できるか不安で、何度もスマホのナビでコミュニケーションをして、当日少し早く出発して約1時間は車のナビを使って行きました。

今ではちゃんと向き合っている、子どもの話をちゃんと聞いて、お互い協力し合って生活が出来ていると思います。怒っている家も暗くなるし、良い事など一つも：だったら「笑って楽しく過ごす」を目標に今もがんばっています。今回一緒に参加された方々、TF Cの方々にとても感謝しています。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

行っていました。子どもとの向き合い方、コミュニケーションの取り方など色々と学べました。講習に参加する前の私はいつもガミガミ、怒鳴ったり、イライラしたりと、かなり子どもに迷惑をかけていたと思います。講習を受けて、自分を見つめ直す時間も出来る、いろいろな考えてみると、ちゃんと子どもと向き合えていたかな？ちゃんと話を聞いてあげられていたかな？と気づかされました。



(M)



とちのきフォスター 時間外電話相談

毎週 水曜日 17:00~20:00

※養育中のお子さんに関する相談に限ります。

080-8082-2298

お子さんの養育で困っている方、一人で悩まずにお気軽にご相談ください。

はじめまして！
フォスタリングパートナーです！



児童養護施設「きずな」
里親支援専門相談員
堀江美景

「子どもたちの笑顔に、こちらが元気をもらいました。里親になって早く子どもを迎えたいです。」先日、施設での研修に参加いただいた里親さんからの言葉です。うれしい気持ちでいっぱいになりました。

施設職員として13年が過ぎ、里親さんをサポートする仕事も7年、そして自身も養育里親として6年になりました。FPとしても、訪問を続けさせていただいています。毎回の訪問では、日々の養育のお話を伺いながら、一緒に泣いたり笑ったり…里親さんに尊敬と感謝の思いの中、お話をしています。

里親さんの毎日は、本当に大変！子育てを投げ出したくなる日もあるでしょう。でも同じくらい嬉しい時間もたくさんありますよね。

これからも、楽しい時も大変な時も、里親さん皆さんと共に同じ時間を過ごさせていたいただきたいと思っています。

里親子皆さんの毎日を応援しています！

第69回栃木県里親大会に思う

栃木県里親連合会会長 畠山憲夫

昨年11月24日(日)に第69回栃木県里親大会が開催されました。式典では模範里親、優秀児童の表彰が行われ、それに続いての体験発表や懇談会など、たいへん有意義なものでした。1年に1回の開催ですが、県内全域の里親が一堂に集まり、そこでお互いを知り、里子たちの事を知り、励ま合うことはとても大切です。里親制度の現状は、数多くの課題を抱えています。しかし、それでも私たちは子どもたちのために、日々、養育に取り組んでいます。大会に参加されたそんな里親、里子の笑顔を見ると、私も幸せな気持ちになりました。これからも里親同士が繋がりが合い、その輪を大きく広げることで里親制度をもっと多くの人に知らせていければと思います。栃木県里親連合会も、皆さんの役に立つ組織でありたいと思いますし、何よりも里親、里子たちが、良い人生を作り上げていくことを切に願っています。



模範里親表彰式



里親・里子の体験発表



テーマ別の懇談会

里親のひとこと

2月7日公開の映画「野生の島のロズ」を子どもたちと観に行きました。

無人島に流れ着いたアシストロボット「ロズ」。ひな鳥を育てていく中で、プログラミングされていない「母」としての心が生まれていくという話です。野生の森の動物たちとの絆も生まれ、みんなのために働き、体がボロボロになっていくロズ。シャットダウンしてしまったロズの胸に体を寄せ、ひな鳥が「ママ…」と呼ぶシーンに里親の姿を思わされてしまい、思わずジーンとなりました。(N)

■メール会員登録募集中(無料)■

メールアドレスを登録すると、研修や講演などの案内や、センターからの様々な情報が送られます。登録は栃木フォスタリングセンターのホームページの「お問い合わせ」から、氏名、メールアドレス等をお知らせください。



〒320-0065
栃木県宇都宮市駒生町1837-3
tel:028-612-6970
fax:028-612-6971
email:tfc2021@circus.ocn.ne.jp

ホームページもご覧ください



HPのQRコード



開所時間:9:00~17:00
定休日:日曜日、月曜日、祝日、年末年始

ホームページ:<https://tfc2021.jp>